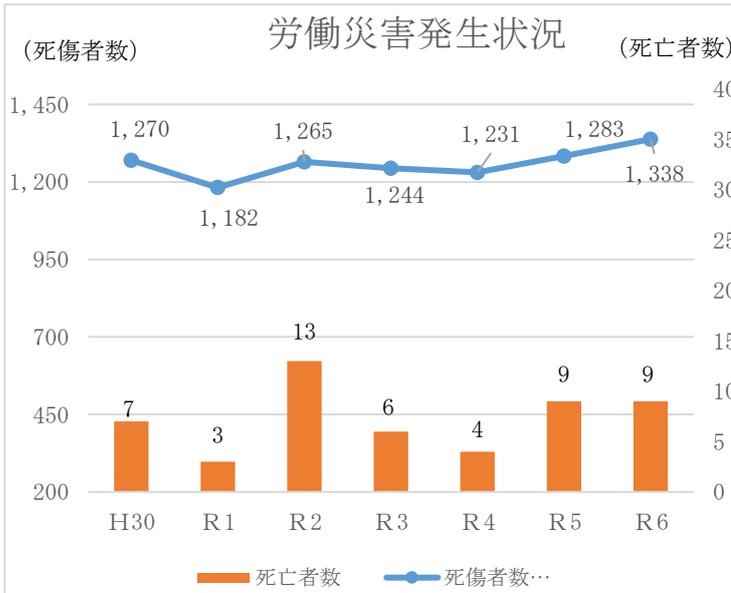


# 佐賀県内の労働災害発生状況 令和6年（令和7年4月集計 確定版）



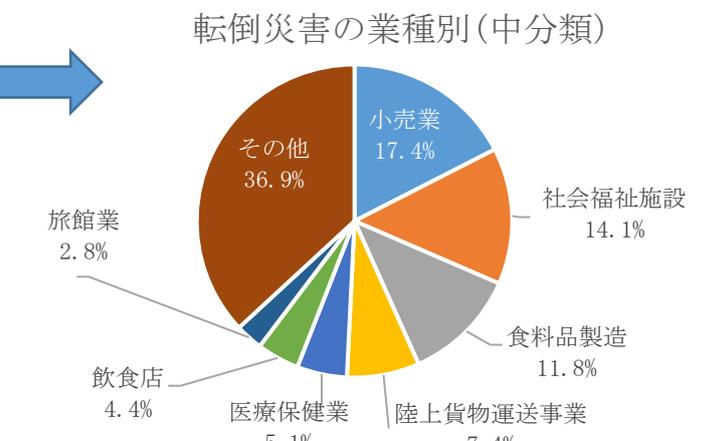
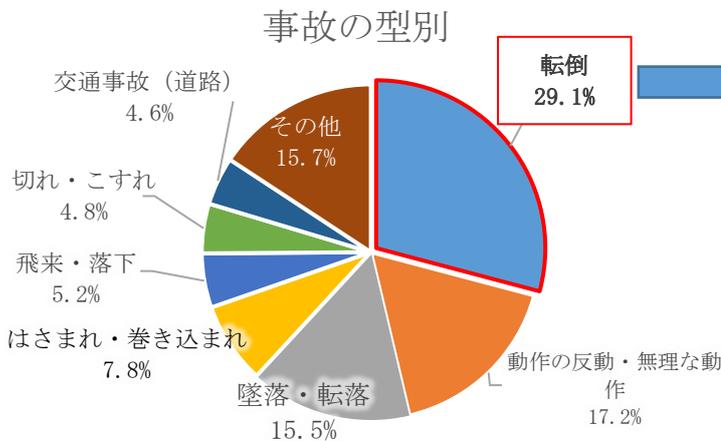
労働災害の12月末の発生状況は、休業4日以上死傷災害が1,338人（コロナを除く件数）、死亡災害は9人（前年同期9人）となっています。

#### 【死亡災害事例】

- 1月 製造業 工場内の鋼板を切断する機械のコンベアー操作盤付近の床面でうつ伏せ状態で発見された。
- 1月 製造業 国道で、被災者の運転する軽トラックが中央線を越え、対向車と正面衝突した。
- 2月 建設業 建屋2階で、解体用つかみ機で解体作業中、フレコンバックを掴み、旋回したところ、バランスを崩し、機体から投げ出され、墜落してきた解体用つかみ機の下敷きになった。
- 4月 接客娯楽業 閉店作業中、頭痛及びろれつがまわらなくなり、意識不明となり、病院搬送3日後に死亡した。
- 7月 製造業 工場内で、電動ホイストにつり下げられた搬器と、2階床面に頭をはさまれた。
- 7月 運輸交通業 ダンプトラック運転中、ガードレール、立木に激突した。
- 7月 運輸交通業 ヘリコプターにて帰社途中、墜落、2名死亡。
- 10月 製造業 ボールミルを使用して洗浄作業を行っていたが、機械に右半身を巻き込まれた状態で発見された。

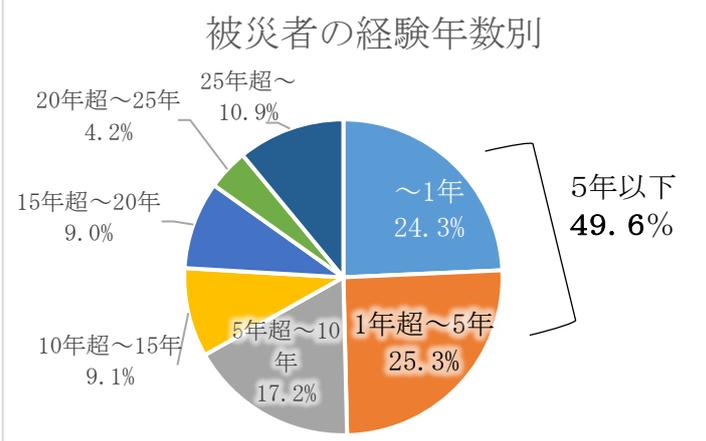
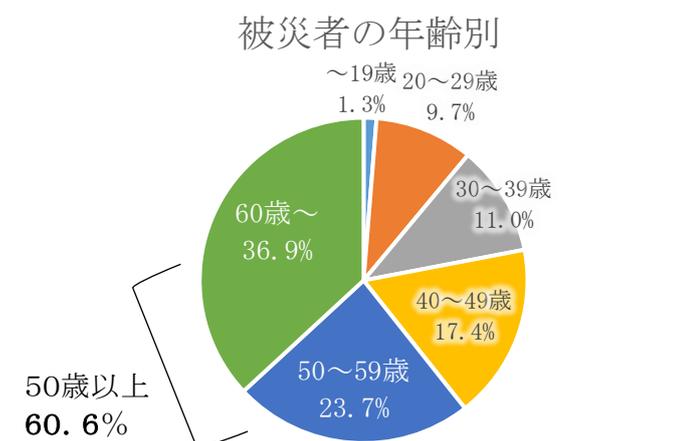
事故の型別で見ると転倒災害が390人で最も多く、次いで動作の反動・無理な動作(腰痛等)が230人、墜落・転落災害が207人の順となっている。(コロナを除く。以下同じ。)

転倒災害を業種(中分類)で見ると、小売業が68人と最も多く、次いで社会福祉施設が55人、食料品製造が46人の順となっている。



年齢別では、60歳～が494人と最も多く、次いで50歳代が317人であり、50歳以上が60.6%を占めている。

経験年数別では、1年超～5年以下が339人と最も多く、次いで～1年が325人となっており、5年以下が49.6%を占め



※死傷病報告書（R7. 4. 7 確定値）より（コロナウイルス感染症によるものを除く）